

2017年度 立教大学コミュニティ福祉研究所 海外派遣研究員報告書

派遣研究員	所属・職	氏名
	コミュニティ福祉学部 助教	山口 綾乃
派遣機関名	米国ハワイ大学大学院 University of Hawaii at Manoa, Honolulu, Hawaii, USA コミュニコロジー研究所 Department of Communicology (所在国 USA)	協定 (有・無)
研究テーマ	中高年の健康とストレスについての日米比較研究－少子高齢化の社会問題を見据えて	
派遣期間	2017年 8月17日 から 2017年 8月 24日 (8日間)	
研究経費	177828 円	

【研究・交流状況および成果】

派遣期間中の具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望等を記入してください。

グローバル化に伴い人の幸福感や生きがいも多様化する時代となりました。これまでの既成の枠組みにとらわれず、人々の幸福感や生きがい、健康度を調査しているミシガン大学、ウイスコンシン大学、スタンフォード大学が所有しているMIDUS(Midlife in the United States)とMIDJA(Midlife in Japan)という日米二つのデータベースを積極的に活用し、中高年期を対象として生きがい、まちづくり、地域活性化モデルを作り上げることを目標としております。私自身が、日米における人々の幸福感研究に携わっている関係から、ハワイ大学大学院、イーストウエストセンターだけではなく、ミシガン大学、ウイスコンシン大学、スタンフォード大学との連携をはかっております。さらに、まちづくりと社会関係資本という研究に携わっている関係から、ハーバード大学とも連携を図りながら、日本の新たなまちづくりや高齢化社会問題に貢献できるよう、今回、ハワイ大学大学院コミュニコロジー研究科キム教授、イーストウエストセンター副代表ルイス教授、ハワイ大学大学院社会学部ウェグナー教授と研究に関する意見交換をする機会をいただきました。そういった意見交換のおかげで、先日、社会関係資本と健康研究で、ハーバード大学の教授に私の論文を引用していただきましたし、米国の国立国会図書館内にある医学書に認めていただきました。日本は、世界で一番高齢化が進むといわれております。その理由から高齢者に対してのよりよい政策が必要とされると提言しております。日本の健康保健システムは、健康保険料を高齢者のために若者が支払っているのが現状です。しかしながら、若者の健康保健システムのような社会福祉政策や政府に対する信頼度が低下してきていますので、そういった健康保険料さえも支払わない若者が増えていることも事実です。このままで日本の高齢化社会と健康保健医療システムを維持していくことができるのでしょうか、いや、破綻するのではないのでしょうかと提言し、それらを提言書としてまとめ、論文化する機会をいただきました。

【研究・交流状況および成果(つづき)】

さらに、グローバル化により、研究の多面的な部分を追及していくということで、ハワイ大学大学院田村先生、谷口先生、ホッジ先生にお会いして、様々な方面からグローバル化に関しての意見、アドバイスをいただきました。日米の中高年齢層データ MIDJA and MIDUS などをつかって、グローバル化に伴う高齢化社会問題、幸福観研究などをさらに追及していきたいと思っております。特に、健康と幸福観については、日米の考え方が違うため、そのメカニズムを一つ一つ丁寧に検証して、提言していけたらということで、各研究者と効率的に打ち合わせをする機会をいただくことができました。ありがとうございました。

【派遣機関の研究・教育環境、周辺環境等】

派遣先機関の派遣研究員の受入体制や、研究・教育のレベル、大学周辺の環境、住環境等、今後の派遣研究員の参考となる情報を記載してください。

ハワイ大学大学院コミュニコロジー研究科は、研究・教育レベルとしては、全米第2位のコミュニケーション研究の大学院である。大学周辺の環境、住環境については、北米から、アジア太平洋地域からの研究者交流が盛んにおこなわれているおり、米国のトップスクールが日本との共同研究を行う際、ハワイ大学大学院やイーストウエストセンターとの連携を取りながら、日本の研究機関(大学院)などと研究者交流が盛んにおこなわれている。今後の派遣研究員として、ハワイ大学大学院、ならびに、イーストウエストセンターは最適な環境であるといえる。